

## 看護学科 3年 後期 専門基礎科目／専門科目

1. 解剖生理学特論
2. 保健医療福祉統計概説
3. 総合実習

看護学科			看護学科						
科目名: 解剖生理学特論			担当教員 氏名: 中田智子 炭谷英信 稲垣尚恵 泉朱子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	3年次	後期	専門基礎科目	講義	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			臨床における看護実践の経験を有する講師が治療やケアを考えるうえで役立つ基礎知識を系統的に学ぶ支援をする						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
1年次で学んだ解剖生理を人の形態機能と生活行動に基づき体系的に学びを深める 患者の疾病と生活を多角的視野で理解するための、知識と技術を統合できる					解剖生理 形態機能				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力			身体の構造と仕組みについて、生活行動の視点でその働きと営みを理解する						
C 論理的思考力			知識を多角的・論理的に分析し、表現できる						
D 問題解決力			自己の問題を発見し、解決に必要な行動をとることができる						
F チームワーク・リーダーシップ			他者との協調・協働という非認知能力を育成する						
H コミュニケーション力			臓器プレゼンテーションを通して情報共有、伝える力を訓練する						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	50 %	レポート:	40 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回テーマに沿ったレポート作成し、発表する。また、すべての授業終了後に筆記試験を行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 各テーマに沿って学生の作成した問題を解いて作成したレポートの振り返りとする									
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)					
				学修内容	学修に必要な時間(分)				
①【中田】心臓のしくみとはたらき、呼吸のしくみとはたらき①					【予習】60分 【復習】60分				
②【中田】心臓のしくみとはたらき、呼吸のしくみとはたらき②					【予習】60分 【復習】60分				
③【炭谷】体液の調整①					【予習】60分 【復習】60分				
④【炭谷】体液の調整②					【予習】60分 【復習】60分				
⑤【稲垣】生殖のしくみとはたらき、胎児循環①					【予習】60分 【復習】60分				
⑥【稲垣】生殖のしくみとはたらき、胎児循環②					【予習】60分 【復習】60分				
⑦【泉】消化のしくみとはたらき、摂食・嚥下の過程①					【予習】60分 【復習】60分				
⑧【泉】消化のしくみとはたらき、摂食・嚥下の過程②					【予習】60分 【復習】60分				
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
使用テキスト: 解剖生理学(1年次使用の教科書)				その他参考文献など: 解剖生理学(1年次使用の教科書) イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき 田中越郎 医学書院 ナーシンググラフィカEX①②③⑧ 系統看護学講座 専門 母性看護学概論・各論 医学書院					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

目次へ戻る

看護学科

科目名: 保健医療福祉統計概説			担当教員 氏名: 山元恵子とりまとめ 高橋絹代、大橋達子、小倉之子、 中田智子、古里直子、米山美智代、荒木晴美 坂東紀代美、泉 朱子、稲垣尚恵、炭谷英			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	3年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護職、医療職等の現場の豊富な経験と知見を有する専門の講師によるオムニバスで授業を行う						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本における保健・医療・福祉に関する統計的数値を読み解き、看護実践に活かすことができる。</li> <li>各専門領域の教員が担当し3年間の復習と国家試験受験のための標準的な知識の獲得である。</li> <li>看護師として総合的な知識を確認するための「<b>看護師国家試験受験資格認定科目</b>」である。</li> </ul>					統計指標 疾病対策 医療対策 福祉対策	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	①衛生の主要指標と結びつけながら、健康増進と生活習慣病対策について考える。 ②衛生の主要指標と結びつけながら、母子保健について考える。 ③衛生の主要指標と結びつけながら、感染症対策について考える。 ④衛生の主要指標と結びつけながら、精神保健について考える。					
C 論理的思考力	⑤衛生の主要指標と結びつけながら、疾病対策(腎疾患・リウマチ・アレルギー)について考える。 ⑥衛生の主要指標と結びつけながら、疾病対策(がん、難病)について考える。					
D 問題解決力	⑦衛生の主要指標と結びつけながら、地域包括ケア、介護保険、在宅看護について考える。 ⑧衛生の主要指標と結びつけながら、医療対策・健康増進・生活習慣病対策について考える。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: これまでの3か年の学習のまとめであり、看護師として必要最低限の習得すべき知識であり、国家試験受験資格として評価判定する。						
アクティブラーニング要素: <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>(課題解決型学修)</span> <span>ディスカッション、ディベート</span> <span>グループワーク</span> <span>プレゼンテーション</span> <span>実習、フィールドワーク</span> </div>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の授業時に小テスト、終了後にまとめて本試験を実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の授業でフィードバックし、最終試験に備える。						
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)			
			学修内容	学修に必要な時間(分)		
①基礎医学について考える。【大橋・泉】			・国民衛生の動向、テキストの確認			【予習】120分 【復習】120分
②母子の保健と看護について考える。【稲垣】			・学習事項についてノートを作成			【予習】120分 【復習】120分
③基礎看護について考える。【高橋】			・不明事項の書き出し、事前学習			【予習】120分 【復習】120分
④精神保健について考える。【坂東】			・小テストの振り返り			【予習】120分 【復習】120分
⑤疾病対策・看護統合、看護倫理他について考える。【小倉】			・不確かな事項についての事後確認・質問			【予習】120分 【復習】120分
⑥疾病対策(がん、健康保持増進)について考える。【中田】			・答えだけでなく「なぜか」根拠を明確にする訓練をする			【予習】120分 【復習】120分
⑦地域包括ケア、介護保険、在宅看護について考える。【荒木】			上記について毎回確実に実施すること			【予習】120分 【復習】120分
⑧高齢者関連他について考える【米山】						【予習】120分 【復習】120分
⑨小児医療・看護について考える。【古里・山元】						【予習】120分 【復習】120分
⑩保健対策・関係法律等について考える【炭谷】						【予習】120分 【復習】120分
使用テキスト: 看護関連のこれまでの使用したすべてのテキスト 国民衛生の動向(厚生統計協会) 図説 国民衛生の動向(厚生統計協会) ISBN978-4-87511-777-3			その他参考文献など: 国民の福祉の動向(厚生統計協会) 国家試験問題集			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各授業は3か年の授業の振り返りであることを意識し十分に準備をして臨まれることを望みます。 「看護師国家試験」に向けての最終のまとめの授業となります。						

## 看護学科

科目名: 総合実習				担当教員 氏名: ○高橋絹代、山元恵子、米山美智代、大橋達子、小倉之子、中田智子、古里直子、稲垣尚恵、泉朱子、炭谷英信		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 急性期の看護経験を活かし、基本から臨床応用までの知識を基にイメージできる授業を行う						
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
これまでの領域実習の経験を踏まえ、看護専門職の役割を認識しつつ、チームメンバーとして看護実践を行い、看護管理の実際を学ぶことで、将来の看護専門職としての自覚を養う。						看護管理 看護提供システム 看護観 チーム医療
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力			これまで授業・演習や領域実習で学んだ知識や経験を統合し、専門職としての自己課題について考えることができる			
B 専門的技術			複数の患者を受け持ち、優先度、時間配分を考慮した看護展開ができる			
C 論理的思考力			理論と実践の統合を目指して思考を深める			
E 自己管理能力			実習中の自己管理ができて欠席、遅刻をしない			
F チームワーク・リーダーシップ			病院、病棟における管理体制を把握し、看護チームにおけるリーダーの役割、メンバーの役割、メンバーシップについて理解できる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %  その他: 100 %
特記事項: 提出物は期限を厳守する 原則とし遅刻、欠席は認めない						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      ○グループワーク      ○プレゼンテーション      ○実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ・評価は出席状況、実習記録、課題レポート、実習中の学修態度で行う						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 担当教員が赤でコメントを入れた箇所では修正が必要な場合、青で修正を行う						
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 遅刻、欠席は原則として認めないため、健康及び生活管理を行う 基礎・領域別実習を統合させた実習となる						
授 業 計 画						準備学修(予習・復習等)
						学修内容
回数	3年次 2単位 90時間		【予習】事前課題は実習前にまとめて提出。実習前日は翌日の実習行動計画を立てる 【復習】実習終了後は、一日の評価と学びを記録。実習終了後は倫理と統合した実習要約を報告する			
	実習期間: 2024年9月30日～10月25日 内病院実習: 2024年10月3日～18日					
	実習病院: 8か所					
	厚生連高岡病院、金沢医科大学水見市民病院、射水市民病院					
	真生会富山病院、富山西総合病院、済生会富山病院					
	富山市民病院、富山労災病院					